

Vol.211



病院ホームページは

<http://www.mhi.co.jp/kobe/hospital/>

かけばし

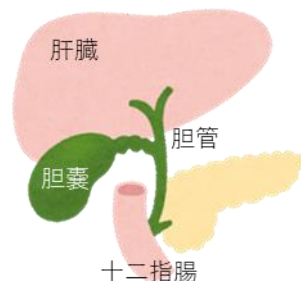
理念

すべては患者様と
地域社会のために

発行責任者 病院長 松本 健

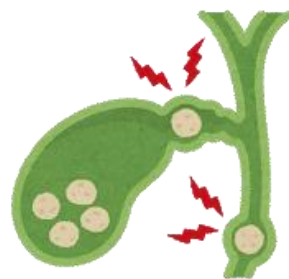
～胆嚢結石症とは～

- 胆嚢は、右の肋骨の裏あたりに存在し、肝臓で作られた胆汁という消化液を一時的に溜めておく臓器です。食事をすると胆嚢が収縮して胆汁が排出され、胆管を通して十二指腸で食べ物と合流します。
- 胆嚢の中に結石ができた状態のことを胆嚢結石症といいます。胆石は胆汁に含まれる成分が凝縮されて結晶化し固まったもので、構成成分によっていくつか種類がありますが、日本人では80%がコレステロール石です。



【症状】

- 2～3割は無症状ですが、半数以上で腹痛、悪心・嘔吐などを起こします。結石が胆嚢の出口を塞ぐと胆汁が排出されず、胆嚢が張って右上腹部に痛みが生じます。食後、特に油の多い食事の後に突然強い痛みが出現することが多いです。塞がっていた結石が外れると痛みは治まりますが、胆嚢が炎症を起こすと急性胆嚢炎という状態になります。胆管が閉塞して炎症を起こすと胆管炎と呼ばれます。胆嚢炎や胆管炎では右上腹部痛、高熱、肝機能異常(黄疸)などが起こります。炎症がひどいときには敗血症をきたし、重篤な場合にはショック状態に陥ることもあります。

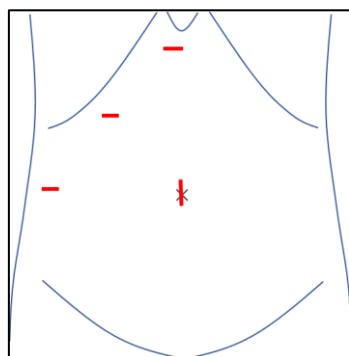


【診断】

- 最適なのは腹部エコーです。体への負担が少なく、結石を見つけると同時に胆嚢の状態を確認することができます。より詳しく調べるためにはCTやMRIを追加します。

【治療】

- 第一選択は手術であり、胆嚢と中の結石を一緒に取ってしまう「胆嚢摘出術」を行います。症状があれば早めの手術を勧めます。無症状であれば経過を見ますが、いずれ胆嚢炎や胆管炎を起こすリスクがあるため、手術を勧めることもあります。胆嚢炎を起こしている場合には緊急手術が必要なことがあります。当院では胆嚢摘出術はほとんどの症例を腹腔鏡で行っており、小さな傷で体への負担は少なく、早ければ術後2～3日で退院できます。腹腔鏡での手術が難しい場合には開腹手術が必要です。基本的には胆嚢を取ることで治療は終了し、定期的な通院は不要です。便が緩くなることはありますが、



腹腔鏡下胆嚢摘出術：図のように
小さな孔を開けて手術します



術後3ヶ月

が、消化吸収には問題がないとされており、特に心配いりません。しかし、術後も術前と同じような症状が続くことがあり、中には追加の治療が必要なことがありますので、気になることがあれば受診するようにしてください。

お問い合わせ先

外科受付 078-672-2628(外線)
8-63-22628(内線)